



子どもたちの

心の内を見つめる

五月から七月にかけて、長崎県内の学校では「長崎っ子の心を見つめる教育週間」と題して、命の大切さ・尊さを再確認する取組を行っています（本校は五月二五日からの一週間でした）。これは左記の事件を振り返り、もう二度と子どもたちを被害者にも加害者にもしてはいけないという決意のもとに行っているものです。

平成十五年七月一日

（長崎市、幼児殺害事件「中学生」）

平成十六年六月一日

（佐世保市、同級生殺害事件「小学生」）

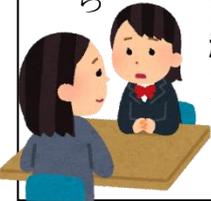
平成二十六年七月二十三日

（佐世保市、同級生殺害事件「高校生」）

いずれの事件も兆候があり、その時点で手を打つていれば起きなかつたかもしれない、防げたかもしれないと悔やまれました。

「目の前にいる子どもの中に起きている変化を見逃さない」

これが、これらの事件を防ぐことができなかった私たち学校教職員の誓いです。



進学するその先を

見に行こう！

各地で高校のオープンスクールや学校説明会が続々と開催されています。近年は二年生や一年生の参加もOK！という高校も多く、早い段階でいろんな情報を集めることが奨励されています。

これまで私立高校の改革が先行し、実際に私もオープンスクールなどに行つてみて「一生懸命に取り組まれているなあ」と感動していました。そして近年は、県立学校も制服の変更や規則の緩和などに加え、授業内容も社会の状況に応じた改革が行われるなど、魅力化が進んでいます。さあ、よりよい未来を選択するために、情報を集めに行こう！

テストは、終わった後が大事

先週、期末テストが終わって答案用紙が返却されてきています。大切なのはこの後です。史上最年少で市長になった高島市長（芦屋市）は次のように言われていました。

間違った（または正解した）理由をふりかえることが大切。

自分の勉強の仕方や授業の受け方などを客観的に振り返り、「次回」へ向けて歩みだすことが大事とのこと。いいことを言われるなあと思つたところです。



《コラム 港町ブルース》

「スマホに流されない力」

「生きる力」の中には、学力や体力、人間力など様々なものがありますが、今の子どもたちにとって最重要だと思われるものは「スマホ使用を自分で切り上げる力」だと思います。それも一時間で。

スマートフォンやゲームなどは、使い過ぎると自律神経が壊れたり、意欲や忍耐力、社会性等が非常に低下したりすることが言われています。また、全国優勝を狙う高校の部活動では、スマートフォンの使用を禁止している部もあることや、 아이폰 (iPhone) を発明したスティーブ・ジョブズは、自分の子どもに 아이폰 等の電子機器は使わせなかつたことなどはよく耳にするお話です。

近年の研究では、一時間以上使用すると、脳の前頭前野（記憶や思考力を担う部位）の機能が著しく低下することが分かってきました。スマホ使用を一時間で切り上げるかどうか。学力の二極化は、これが原因ではないかと考えています。



《 主な行事予定 》

《7月》

- 5日（金）相川氏講演会（小中合同、テーマ：潮流発電など）
- 16日（火）防災教室（口加高校生来校）
- 18日（木）大掃除
- 19日（金）終業式（給食あり）
- 21日（日）県中総体 ～23日
- 25日（木）三者面談（3年生）
保護者面談（1・2年生）～31日

《8月》

- 8日（木）授業日（道・総・学）
- 9日（金）県民祈りの日、平和集会
- 10日（土）学校閉庁日 ～15日
- 21日（水）課題実力テスト～22日

《心に響いた言葉》 「自分たちには見えないところで苦しんでいる人がいるかもしれないから、そこに目を向けていきたいと思った。」全校道徳を終えた生徒の感想から。



シリーズ「学校教育の充実」

第二期南島原市教育振興基本計画から

第三回：「コミュニティ・スクール

」の「コミュニティ・スクール」について、本市の教育振興基本計画には次のように記されています。

地域住民、児童生徒の保護者などの学校運営への参画を促進します。この取組により本市の将来を担う児童生徒を地域全体で育む「地域と共にある学校づくり」を推進するとともに、地域や子どもをめぐる課題解決のためのプラットフォームにもなり得る学校を核とした地域づくりを推進します。

右の記述のとおり「地域づくり（まちづくり）」をねらいとした仕組が「コミュニティ・スクール」ですが、文科省の調査によると令和五年度までに全国の学校の半数以上で設置されているとのことでした（下図）。

なぜこのように増えてきているか。

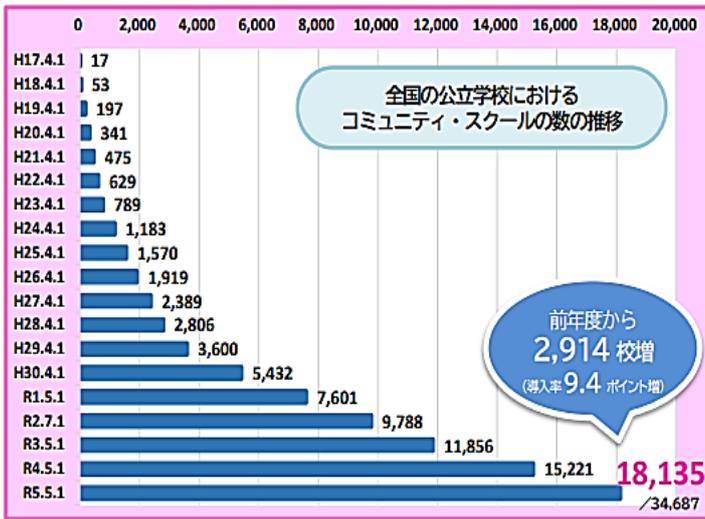
（この後は私見ですが）人口減少社会の中にあつて過疎化する地方を元気にする仕組や取組が必要なのだと思います。学校も地域も「もっと自分たちの地域の未来を考えよう」ということなのだと考えています。

そうしなければ「消滅」して行くのですから…。



〈そこで、中学校（本校）では〉

本校は、昨年度から口之津地区コミュニティ・スクールとして口之津小学校と共に指定を受けて実践を進めています。そして県の「ふるさと教育」研究の指定を受けて取組を進めています。この二つを同時に進めていることによつて今まで「地域色が少なかった学校で、「学校もまちづくりの一端を担うことができる」という実感を抱くことができている」という内容については、来る10月25日（金）に発表会を行いますので、ぜひ御来場願えればと思います。よろしくお願ひします。



〈文部科学省の調査から〉

「ゲーテンベルグ式印刷機」

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から

「日本初の活版印刷機」をホームページで探したところ、次のような記述を見つけました。

一五八〇年、天正遣欧少年使節がヨーロッパから活版印刷機を持ち帰ります。南島原の口之津港から、コレジオ（神学校）のあつた加津佐町に運ばれ一五九一年に日本初の活版印刷で「サントスの御作業の内抜書」が印刷されます。日本語のローマ字の二巻で構成され一巻七〇〇ページを越す大冊でした。聖人伝を載せ、キリスト教の精神に基づく日常生活の模範書としました。

(MOTSUMI PRESS ほか)

江戸時代が始まる前にこの地では、印刷機を操る技術があり、書を綴る教養があり、そしてそれを読み解く民がいた。日本で最先端（最高）の生活がここにあつたことを、このまちで生きる私は誇りに思います。



【お知らせ】大雨への備えについて

例年この季節、大雨の被害が多く発生しています。長崎大水害が起きたのは、一九八二年七月二十三日から二十五日にかけてでした。大雨の可能性がもうしばらく続きます。命を守る行動がいつでも取れるよう、御留意ください。

